

1 『前後際断』 ぜんごさいだん

先日聴いた話の内容の一部を紹介します。

新型コロナウイルスが流行りはじめて2年以上が経ち、気持ちが滅入ったりしている人も多いかと思います。曹洞宗の僧・道元の教え『前後際断』によると、「目の前のこと、将来のことを不安に思ったり、過去のことを後悔したり、そればかり私たちは考えがちですが、そんな時こそ、今している目の前のことに意識を向けると、「今」に気持ちが研ぎ澄まされていって、毎日を全集中で過ごすことができるようになる。」のだそうです。また、瀬戸内寂聴さんは、「明日のことを心配するよりも、今日その日を一生懸命生きてみなさい」と説いていらっしゃいました。「毎日を丁寧に暮らしていくと、『日日は好日』といって毎日が素敵な日になっていく。今日はいい日であるかな、だめな日かなと心配するのではなく、今日一日をただ生きまきるといことで、『日々是好日』になる。」といひます。



科学技術高校で過ごす毎日を、全集中で、一生懸命生きていけば、今日という一日が、やがて人生までもが、変わっていくと思ひました。

2 科学技術高校・学校HP

今年度、本校学校HPに、「校長より」というコーナーを新設してもらひました。日頃の授業の様子をはじめ、部活動やさまざまな取り組み、本校ならではの特長や魅力など、写真とともに最新の情報をアップしています。

総務課HP担当や教職員がそれぞれ記事や情報を掲載しています。コロナ禍で、生徒たちの生き生きとした姿をご覧いただく機会が少なくなっている今、科学技術高校の情報満載の学校HPを、ぜひご覧ください。

3 学びを楽しくする魔法の言葉

脳科学者の本のなかに書かれていた、「セレンディピティは学びを楽しくする魔法のスパイス」という文の一部を紹介します。

私の好きな言葉に、「セレンディピティ」というものがあります。セレンディピティとは、「偶然の幸運に会う能力」という意味。何かを学ぼうと、とても重要なことだと私思っています。なぜなら、遠くからやってくる偶然の英知が、自分にとってかけがえのない生きる糧になることが、必ずあるからです。

セレンディピティを身につけるには、次の3つが必要になります。

まずは「行動する」ことです。興味があることだけに目を向けたり、経験から得た知識の中だけに閉じこもっているのは、偶然の幸運に会うことはできません。目的はなんでもいひので、とにかく広い世界に出て学びを楽しむことです。

次に必要なのが「気づき」です。せつかく偶然の幸運に出会っても、それに気づかなければ意味がありません。そのためには、自分が目的としていることの「中心」だけを学ぶのではなく、「周辺分野」にも目配りするよう意識を持ってください。

そして最後が「受け容れる」ことです。せつかく新しい「知」に出会っても、それを「受容」することができなければ、生かすことはできません。それまでの自分を正当化しようとして、新しい学びに対して頑なに拒絶してしまうと、せつかくの機会を逃してしまいます。

セレンディピティとは、古い自分に新しい自分を上書きする時に必要な、学びを楽しくするスパイスなのです。

（茂木健一郎著「茂木健一郎の脳がときめく言葉の魔法」から）